

音楽科学習指導案

日 時：平成〇〇年〇〇月〇〇日（火）
2校時（9：50～10：30）
対 象：小学部 低学年部
男子8人 女子10人 計18人
場 所：1階多目的教室
指導者：（T1）（T2）（T3）（T4）
（T5）（T6）（T7）（T8）
（T9）（T10）（T11）

1 題材名 「みんなでうたおう」

主教材名 わらべ歌「どっちん かっちゃん」「ぎっちょ」「おじいさん」
「やきいも ぐーちーぱー」
「とんぼのめがね」

2 題材について

(1) 題材設定の理由

ア 題材の価値

低学年部は、知的障害、肢体不自由、知的障害と四肢の機能障害を併せ有する重度・重複障害のある児童が在籍しており、障害の状態も様々である。音楽を享受する段階（大人の話し掛けや歌い掛けに対し喃語・手足を動かすなどの反応を見せる）から、音楽を能動的に楽しむ段階（ことばとリズムを大体把握して歌う・大人の表現をより正確に模倣しようとする）までと、音楽的な発達年齢も幅広い。

これまでに、教師や児童が歌う様子を見たり聴いたりして笑顔や身体反応などで楽しむことや、児童同士のかかわりを育てることをねらい、わらべ歌遊びや歌遊びを導入段階の活動に取り入れてきた。そのなかで、歌に合わせて頭や身体を触れられると、笑顔や発声、動きに合った簡単な歌詞を歌うなどの姿が見られるようになってきた。歌唱を中心とした題材「うたでなかよし」では、歌に合わせて動かすペープサートを見る・繰り返し歌うことで歌詞の一部分を覚えて歌うなど、歌ってもらうことの心地よさや歌う楽しさを感じ始めている。

一方では、歌遊びなどで、緊張したり、笑顔や身体反応が見られなかったりする児童や、歌に合わせて手拍子をしたり、わらべ歌遊びなどで揺さぶられることを楽しんだりして歌いたいという意欲はみられるが、声を出す、歌を歌うなどの行為が難しい児童もいる。

そこで、歌い掛けながら身体に接するわらべ歌遊びにじっくり取り組むことを通して、情緒の安定を促すとともに、教師や児童との「楽しい」という共感関係を育てたいと考えた。さらに、教師や友達と一緒に身体を動かしながら表現する楽しさを感じることで、曲のもつ雰囲気を感じながら歌ったり、歌詞に合わせて身体表現したりする意欲も高めることもねらい、本題材「みんなでうたおう」を設定した。

具体的には、まず、教師に揺さぶられる、教師や友達のしぐさを見る・模倣する、児童が集団で役を交代するなどのわらべ歌遊びを通して、教師との心情的な結び付きを深め、そこから、友達とのかかわりを楽しむことへと広げていきたい。また、発声能力が未発達な児童にとっては、児童の声の高さに合わせて歌う教師の声を聴かせることで、無理なく歌う力も育てていきたい。

次に、教材曲「やきいも ぐーちーぱー」「とんぼのめがね」は、自分の体験や自然の美しい色を思い起こしながら歌うことができる曲である。まずは、歌詞の表す様子を思い浮かべることができる場を設定することで、歌の世界を楽しませたい。音楽を享受する段階の児童は、友達や教師の歌を聴いたり一緒に身体を動かしたりすることを通して、自発的な動きや発声などで音楽を楽しむことができるようになる。また、これらの教材曲は動作が歌詞と結び付きやすいことや動作化しやすいことから、音楽を能動的に楽しむ段階の児童は、身体表現の楽しさを味わうとともに、歌詞の一部分から全部を歌えるようになることができるようになる。さらに、歌詞を意識することで、歌詞のもつ意味を理解して気持ちを込めて歌うことにもつながっていくと考える。

これらの活動を通して、生活の様々な場面で、音楽を聴いて自然にリラックスしたり、歌い踊ったりするなど音楽に親しみ、心豊かな生活を送ることにつながってほしい。

イ 指導観

観 点	指 導 観
人のつながり	<p>教師間で児童の基礎課題や音楽の目標、指導の手だてを共通理解して授業に臨み、それぞれが適切な支援を行えるようにする。また、集団での活動が苦手でないかなか入れない・緊張するなどの児童がいるので、わらべ歌遊びでは、教師との一対一から集団遊びへと広げ、友達の喜ぶ声や表情、雰囲気などで人とかわることをの楽しさを感じ取らせるようにしたい。更に、「やきいも ぐーちーぱー」や「とんぼのめがね」では、身体表現方法を工夫することで友達と音楽を楽しむだけでなく、集団で音楽を共有する一体感を味わえるようにする。</p>
時のつながり	<p>授業の流れが把握しやすいように学習カードを工夫し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。また、教材曲では、生活単元学習と関連づけたり、視覚教材などを利用したりして、曲の雰囲気や歌詞の意味をイメージしやすくしていきたい。</p> <p>このような活動を通して、教師と友達の歌の呼び掛け合いやリズムを感じながら歌ったり身体表現をしたりして、歌うことの楽しさや喜びを味わうことができる3学期の学習活動へとつながっていく。</p>
場のつながり	<p>歌や音楽を聴くこと、伸び伸びと歌う喜びや気持ちを合わせて歌う楽しさを味わうことは、人間の欲求であり、生活に潤いをもたらせるものである。そこで、教師自身が楽しんで表情豊かに歌う歌声を聴かせることで、児童が発声することへの興味・関心を引き出していきたい。また、教材曲の導入段階で、パネルシアターを見る・動作化するなどで、歌詞を覚えやすくするとともに歌唱意欲を高めていけるようにする。</p> <p>歌詞カードは、歌全体のイメージがもてるように絵を入れるなどの工夫をするが、文字に興味・関心をもっている・文字学習に取り組んでいるなどの児童がいるので、平仮名で書いたものを掲示する。</p>

(2) 児童の実態及び留意点

氏名	課程	障害名・障害の状態	題材に関する実態（興味・関心、主観点）	指導上の留意点
A	知的 I 課程 児	知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽に対して興味・関心が高く、意欲的に学習に取り組んでいる。教師の質問にも進んで答えることができる。 ○ 知らない曲でも何度か聴いているうちに覚えて、歌ったり、身体表現したりすることができる。 ○ わらべ歌遊びでは、好きな友達には自分からかわりをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次は何をするのかということ自分で考えさせたり、周りの友達に積極的にかかわれたりするような支援をする。 ・ 大きな声で歌えたり、自分から体を動かしたりした際には、更に意欲的に取り組めるように支援する。
B	知的 I 課程 児	知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌や身体活動を好み、教師を模倣して歌ったり、自由に身体表現をしたりすることができるが、興味の移り変わりが早く、活動に対する好き嫌いがはっきりしている。 ○ いろいろな曲を知っていて、自分の好きな曲を選び、楽しく聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動に見通しをもたせるために、T1の言葉を反復したり、これまでの学習内容を思い出させたりするような言葉掛けをする。 ・ 本人の自由な表現や動きを尊重しつつ、学習の場であることを意識できるように支援する。
C	知的 I 課程 児	知的障害 視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大きな集団では難しいが、歌を聴くことが好きで、初めて聴いた歌でも、歌詞ははっきりしないが、ほぼ正しい音程で口ずさむことができる。 ○ 教師の動きを見ながら、ダンスなど身体を動かすことを好む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動の流れが分かるように、順番通りに言葉で伝えたり、学習カードを見て自分で確認させたりする。

D 児	肢体 D 課程	肢体不自由 車イス使用	○ 筋緊張することがあり、視覚的な刺激に対する反応が少ないが、教師や友達とかかわりながら活動することが好きである。わらべ歌遊びや歌遊びにおいては、手足を揺さぶられたり、声を掛けられたりすると笑顔を見せることが多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師や友達とかかわりをもつ場面を増やすために、周囲への言葉掛けを行う。 ・ 歌声や曲の響きを感じられるように耳元で聴かせる。 ・ リラックスできる姿勢やポジショニングをとり、本児の好む揺れる動きをしながら、様々な身体の動きを経験できるようにする。
-----	------------	----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 題材の目標

(1) 全体目標

- 教師や友達と一緒に揺さぶり遊びをしたり、しぐさや歌を模倣したり、役割交代をしたりすることを通して、わらべ歌遊びを楽しむ。
- 曲の雰囲気を感じながら歌ったり、歌詞に合わせて身体表現をしたり、教師と一緒に曲に合わせて身体を動かしたりすることを通して、声や身体で表現する楽しさを感じる。

(2) 個人目標

氏名	関連する基礎課題	個人目標
A 児	① 文字を読んだり、自分の経験したことを話したりする。 ⑥ ルールを理解し、友達と仲良く遊ぶ。	○ 曲やしぐさを覚え、自分から友達を見つけ、たくさんの友達とわらべ歌遊びを楽しむことができる。 ○ 歌詞を覚え、歌詞に合わせて身体表現をしたり、元気よく歌ったりすることができる。
B 児	⑤ 友達や教師とかかわったり、歌唱や身体表現をしたりする活動を通して、音楽に親しむことができる。	○ 友達とかかわりながら、楽しくわらべ歌遊びをすることができる。 ○ 歌の一部を歌ったり、歌詞に合わせて身体いっぱい自由に表現したりすることができる。
C 児	① 友達や教師に自分からあいさつをしたり要求があるときは「おねがい」「かして」など言葉を使って相手に伝えたりすることができる。 ⑤ いろいろな友達や教師とかかわりながら音楽に親しみ、歌詞を覚えて歌ったり、振りを覚えて体を動かしたりして楽しむ。	○ わらべ歌遊びで、教師や友達とふれ合ったり、役割を交代して遊んだりしてかかわりを楽しむ。 ○ 曲に合わせてメロディーや歌詞を覚えて歌ったり、振りを覚えてダイナミックに身体表現をしたりする。
D 児	① 音や声のする方に顔を動かしたり、視線を向けたりすることができる。 ② にぎやかな雰囲気を感じながらリラックスして学習に取り組むことができる。	○ 教師と一緒に身体を動かしたり、身体を揺さぶられたりする活動を通して、わらべ歌遊びを楽しむことができる。 ○ 曲の雰囲気を感じたり、教師や友達の歌声を意識して、顔を動かしたり視線を向けたりすることができる。

(3) 個人目標を達成する上で必要な手だて (◎：人 ◆：時 ☆：場)

【A 児】

- ◎：いろいろな友達と自分から進んでかかわりをもてるよう、交代を促すような言葉掛けをして楽しく学習できるようにする。
- ◆：学習カードやめあての文字を読むことで、学習内容を確認めながら、進んで活動に取り組めるようにする。
- ☆：興味を示す教材・教具を準備し、それを自分から使って活動できるようにする。

【B 児】

- ◎：特定の教師や友達とだけでなく、いろいろな友達とかかわるように言葉掛けをする。
- ◎：教師や友達が歌っている様子や身体表現をしている様子を見ることで、意欲的に学習活動ができるように支援する。
- ◆：学習カードを利用して学習の流れの見通しをもたせる。
- ◆：「これから～するんだよ」などとT1の指示などを復唱し、伝えることでこれからの活動を理解しやすくする。
- ☆：パネルシアターなどの視覚教材を導入で提示することで、歌詞の内容に興味をもたせる。

【C 児】

- ◎：人とかかわる経験が少ないので、「○○さんとしよう」などの言葉掛けをしたり一緒に活動したりして、楽しく学習できるようにする。
- ◎：好きな活動（くすぐられる歌遊びなど）を通して、いろいろな人とかかわりを広げられるようにする。
- ◆：カードやお面などを実際に近くに行ってみたり、触ったりして確認することで、見通しがもてるので、ある程度認めるようにする。
- ◆：音声の情報が入りやすいので、復唱したり、「次にどのような活動をするのか」を具体的に説明したりする。
- ☆：自分でお面等を選ぶ機会を作るようにする。

【D 児】

- ◎：人とのかかわりの楽しさを感じられるように、わらべ歌遊びなどにおいて教師から身体に触れられたり、揺らされたりする感触を十分に味わえるようにする。
- ◆：音楽の時間だということを感じられるように、じっくりを歌や音を聴けるようにする。
- ☆：緊張せずにじっくりを音楽を味わうことができるように、場に応じてリラックスできる姿勢をとる。

4 指導計画

時間	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時(本時)	第7時	第8時	
(分)	「どっちゃんかっちゃん」 (揺さぶる遊び) 教師と一緒に								
5									
10	「ぎっちょ」 (しぐさ遊び) 教師と一緒に		「ぎっちょ」 (しぐさ遊び) 教師と一緒にまたは子ども同士		「おじいさん」 (役交代遊び) 集団で				
15		「やきいもぐーちーばー」 1 聴く パネルシアターを見る	「やきいもぐーちーばー」 1 歌う ・身体表現しながら歌う	「やきいもぐーちーばー」 1 歌う ①身体表現をしながら歌う	「とんぼのめがね」 1 聴く ・映像を流しながら、教師が歌う		「とんぼのめがね」 1 歌う ①布人形を持ったりお面をつけたりして歌う	「とんぼのめがね」 1 歌う ①身体表現をしながら歌う 布人形、お面、抱っこ、両手を広げる等	
20	「やきいもぐーちーばー」 1 見る いもほりごっこをする	2 身体表現をする ①ぐーちーばーの動作を考える ②考えた動作で身体表現をする ③びったんこゲームをする	2 身体表現をする ①すべての動作を知る ②友達とびったんこゲームをする	2 (びったんこゲームをする)	「とんぼのめがね」 1 聴く ①映像を見たり、とんぼを見たりする		2 歌う ①布人形を持ったりお面をつけたりして歌う ②身体表現をしながら歌う	2 歌う ・教師に抱っこしてもらい、光(水色等)の中を飛んで回る(飛んでいる感覚を体感できるように)	2 ②めがねを選び、つけて歌う 水色、金色、赤色
25	2 聴く パネルシアターを見る	3 歌う ・身体表現をする ・「ぐーちーばー」の歌詞を意識して歌う	3 身体表現をしながら歌う ・「やきいも」 ・「おながが」 ・「ほかほか」 等歌う部分を少しずつ広げる	③元氣よく身体表現をしながら歌う	「とんぼのめがね」 2 教師の歌を聴く (男声、女声、混声)		2 ②身体表現をしながら歌う ・「青いお空」 ・「おてんとさま」 ・「ゆうやけくも」等を見ながら	③身体表現(飛んでいるように)をしながら歌う	③今まで学習したことを生かし、身体表現をしながら歌う
30	風の谷のナウシカ ～オルゴール編～	ハイホー ～白雪姫より～	おしえて ～「あるひのしゅうじい」より～	自分達の学習の様子をビデオ鑑賞する	里の秋	赤とんぼ	たき火	自分達の学習の様子をビデオ鑑賞する	

5 本時（6／8）

(1) 目標

ア 全体目標

- 教師に抱っこされて揺さぶられたり、友達と「おじいさん」の役交代遊びをしたりして、楽しんで歌ったり、遊んだりすることができる。
- 映像やプロジェクターの色を見ることで曲のイメージを感じ、教師と一緒にとんぼのお面等をつけて歌ったり、自由に身体表現をしたりすることができる。

イ 個人目標

氏名	個人目標
A 児	○ わらべ歌遊びでは、教師や友達にできるだけ自分の方からかかわりを求め、楽しんで歌ったり、遊んだりすることができる。 ○ 「とんぼのめがね」では、曲のイメージをつかみ、とんぼになったつもりで元気よく歌ったり、身体表現したりすることができる。
B 児	○ 揺さぶりあそびをする相手の教師を自分で選び能動的に楽しんだり、集団に入り役への期待感と集団遊びの楽しさを感じながら活動することができる。 ○ 曲のイメージを映像や友達の活動する様子などで感じ取り、歌詞の一部を歌ったり、とんぼになりきって自由に体を動かしたりすることができる。
C 児	○ わらべ歌遊びでは、いろいろな教師や友達とふれ合いながら抱っこや揺さぶられる心地よさを感じたり、役割交代遊びを楽しんだりできる。 ○ 映像やプロジェクターの色で歌詞の中の「青い空」等の色の違いを感じ、教師と一緒に元気よく歌ったり、体を動かしたりできる。
D 児	○ わらべ歌遊びでは、教師に揺さぶられる感覚を味わって笑顔になったり心地良く声を出したりすることができる。 ○ 「とんぼのめがね」の教師や友達の歌声に聴き入り、顔を動かしたり視線を向けたりすることができる。

(2) 指導に当たって (◎：人 ◆：時 ☆：場)

わらべ歌遊びを楽しんで歌ったり、遊んだりできるように、まず、「どっちん かっちん」で教師に身体を揺さぶられる活動を行い、安心感や快い鼓動を感じられるようにする(◎)。教師とのかかわりの中で「楽しさ」を経験した後、集団で遊ぶ「おじいさん」を行う。「おじいさん」の役を交代する遊びをし、役割交代の期待感や集団の中の友達とかかわり合いを深める喜びを味わわせたい(◎)。その際、T1は児童が歌に、より注意を向けることができるように声の高さ、テンポ、表情などに気をつけて歌い始める(◎)。T2～11はT1の声の大きさ等に合せて歌い始め、他の教師の歌声にも耳を傾けるようにする(◎)。他にも児童の視線の高さに合わせる、児童の表情や発声などを読み取りながら働き掛けるなど支援をしていきたい(◎)。

「とんぼのめがね」では、曲のイメージを感じ取ることができるように、曲に合った美しい自然の映像を流したり、「青い空」等の背景画に合わせた色をプロジェクターで映し出したりする(☆)。始めに映像を見ながら、教師が表情豊かに歌う声を聴くことによって、児童の「歌うこと」に対する関心や意欲を高めるようにしたい(◎)。実態に応じて、お面をつけたり、布人形を持ったりする活動を取り入れ、児童が楽しく歌ったり、身体表現をしたりすることができるようにしたい(☆)。身体表現をしながら歌う活動では、背景画を提示することで、歌詞を意識しやすくし、歌う部分を広げるきっかけにもなるようにしたい(☆)。また、児童が歌いやすいように、歌うスピードに合わせて、ピアノ伴奏をする(☆)。積極的に活動することが苦手な児童もいるので、友達の活動を見たり、歌を聴いたりすることで参加していると評価し、無理強いはいしない。

T1が児童の様子を見ながらスムーズに授業を進めていくことができるように、CD操作や伴奏はT2が行う(◎)。また、それぞれの学習場面で適切な支援ができるように、個人目標を相互理解しておく(◎)。

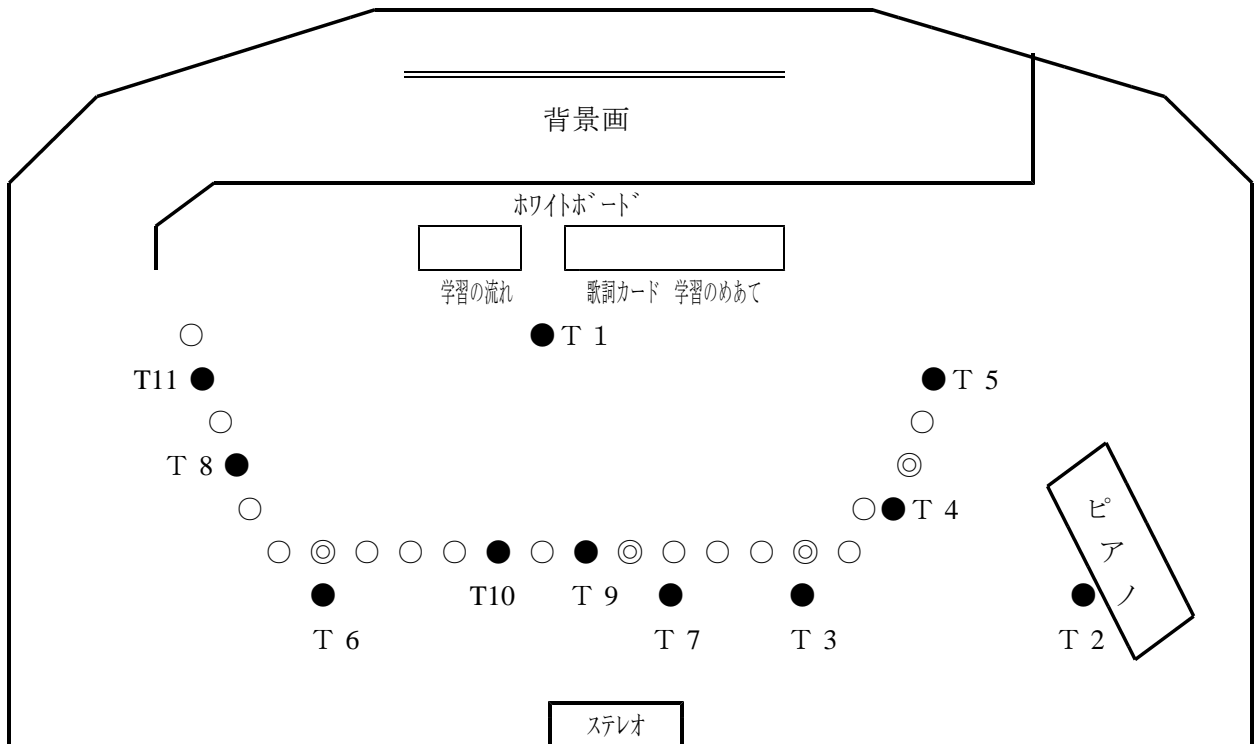
学習の流れを視覚的にとらえることができるように、一単位時間の学習の流れカードを提示し、確認しながら学習を進める(◆)。また、学習のめあてを板書することで、児童の活動に対する意識を高め、楽しく学習できるようにする(◆)。ただし、この題材は、わらべ歌遊びと教材曲「とんぼのめがね」がメインの活動だが、児童が課題を明確にできるように、学習のめあてを「とんぼのめがね」に絞ることにした。

(3) 実際

過程 (分)	主な学習活動	指導の手だて	備考 (教材・教具等)
導入 (4分)	1 始まりの歌を歌う。 「おへんじしましょう」 ○ 学級名を呼ばれたら、返事をしたり，T1とタッチしたりする。	○ 学習の始まりに気付くように，始まりの歌を歌う。 ○ それぞれの実態に応じた返事ができるように支援をする。	ピアノ伴奏
展開 (34分)	2 わらべ歌遊びをする。 (1) 揺さぶる遊び 「どっちん かっちん」 ○ 教師に揺さぶられながら，歌い遊ぶ。 (2) 役交代遊び 「おじいさん」 ○ 輪になって座り，おじいさん役を交代しながら歌い遊ぶ。	○ 児童の表情・発声等を読み取り，快的な情動を共有し合えるように，目の高さ，声の大きさに配慮する。 ○ 役交代のルールを思い出させ，友達とのかかわりがもてるように言葉掛け等の支援を工夫する。	歌詞カード 杖
	3 「とんぼのめがね」を歌う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">とんぼに へんしんして 「とんぼのめがね」を うたおう</div> (1) 「とんぼのめがね」を聴く。 ○ 映像を見ながら，教師の歌を聴く。 (2) 「とんぼのめがね」を歌う。 ○ 布人形を持ったりお面をつけたりして歌う。 ○ 身体表現をしながら歌う。 「青いお空」「おてんとさま」 「ゆうやけ雲」を見ながら。 (3) 学習を振り返る。	○ T1が学習のめあてを書いている間，T2～11は児童の実態に応じて，一緒に読むなどの支援する。 ○ 色を意識することができるように曲に合わせて，青空や太陽，夕焼け雲の映像を流すようにする。 ○ 意欲的に活動できるように，自然に動作化し始めた児童の動きを賞賛する。 ○ 背景画を指さしたり，その方向に飛んでいくような動作をしたりして，楽しく身体表現ができるようにする。 ○ 楽しかったことや上手にできたことを発表する場を設け，称賛することで，次時の学習への意欲付けをする。	プロジェクター パソコン スクリーン 歌詞カード 布人形 お面 プロジェクター パソコン 空の背景画
	4 鑑賞をする。 「赤とんぼ」	○ 曲のイメージがもてるように，視覚的なアプローチをする。	C D 映像
終末 (2分)	5 終わりの歌を歌う。 「きょうもげんき」 ○ 身体を動かしたり，友達や教師と手をつないだりしながら歌う。	○ 楽しい雰囲気で行われることができるように，実態に応じた支援をする。	ピアノ伴奏

個別の指導の手だて (◎：人 ◆：時 ☆：場)			
A 児	B 児	C 児	D 児
◎ 元気よく歌うことができるように、近くでT6も一緒に歌ったり、言葉掛けをしたりする。	◎◆ 元気よく歌うことができるように、教師が側で身振りを大きく、表情良く歌う。	◎◆ 自分の学級がいつ呼ばれるのか、期待感を高めるような言葉掛けをする。	◎◆ 耳元で歌ったり、曲に合わせて体に触れたりすることで、学習の始まりを意識できるようにする。
◎ 上手に歌ったり、呼ばれてT1に自分からタッチできたときには、称賛する。	◎◆ 自分の順番を言葉かけで意識させ、T1の手にタッチできるように支援する。	◎ 呼ばれていることに気づかない場合は、背中に触れてT1とのタッチを促すようにする。	◎ 自分が呼ばれていることに気付けるように、T1が手を揺さぶりながら呼名する。
◎ どの教師でも揺さぶり遊びをしていいことを知らせ、自分からかかわりを求められるような言葉掛けをする。	◎ 「どっちん かっちゃん」の相手となる教師は誰がいいか問い掛け好きな教師とペアになれるように支援する。	◎◆ 前向き、後ろ向き、抱っこなど、好きな姿勢でT2とできるように配慮し、ふれ合うことの心地よさを感じられるようにする。	◎ ☆リラックスできる態勢をとり、教師の歌声を聴けるようにし、適度な揺さぶりを行うことで笑顔が見られるようにする。
◆ ◎ 前時でのことを想起し、たくさんの友達とかかわりたいという気持ちをもてるような言葉掛けをする	◎ ☆ 友達の様子に意識を向けるように言葉掛けをして、役割交代の期待をもつことができるように支援する。	◎ 友達の様子を見せながら言葉掛けをし、役割交代であることを理解させる。	◎ 友達とのかかわりを多くもたせることで、かかわりあう楽しさを十分に味わえるようにする。
◆ 学習のめあてに注目し、文字を読むことができるよう近くで言葉掛けをする。	◆ 本児から出た言葉を繰り返し、共感することで、期待や意欲を高めることができるようにする。	◆ 学習のめあてを近くで読み、復唱させたり具体的に説明したりすることで学習活動を知らせる。	◆ 「今日はとんぼになるんだよ。」等、分かりやすく語り掛けをすることによって、学習に対する期待感が高まるようにする。
☆ 映像を見ながらどんな感じがしたのか問い掛け、情景を想像させる。	☆ 映像や色を意識付けるために情景を細かく言葉で説明する。	☆ プロジェクターの色の違いが感じ取れるように、見えやすい場所へ移動させる。	☆ 光を感じるができるようにプロジェクターの色そばに行ったり、直接光が顔に当たるようにしたりする。
☆ 映像と歌詞を結びつけられるように近くではっきりと歌うようにする。	◆ ☆ 歌を耳元で歌うことで歌を思い出し、映像と歌を意識することができるようにする。	○ 近くではっきりと歌い掛けることで、歌詞を正しく伝えるようにする。	☆ 教師の歌声が聞こえやすいようにする。
◎ 元気よく歌ったり自然と体を動かしたりしたときには、称賛し、意欲を高められるようにする。	◆ 椅子から離れてしまったときは今すべきことを確認し、活動の流れに見通しをもつことができるようにする。	☆ 布人形やお面、背景画が何であるか、近くに移動させて確認させるようにする。	☆ リラックスできる姿勢やポジショニングをとり、本児の好む揺れる動きをしながら、曲に合わせた様々な動きも経験できるようにする。
☆ 好きな動きをしてもいいことを知らせ、大きな動きができるよう支援する。	☆ 自由な身体表現を称賛し、その場を楽しく感じることができるようになる。	○ 近くではっきりと歌い掛けることで、歌詞を正しく伝えるようにする。	☆ 背景画の近くに行き、雰囲気を感じるができるようにする。
☆ 自分の好きな場所で鑑賞させ、秋の雰囲気を感じ取らせる。	☆ 自由な動きや歌を口ずさむ姿を尊重し、心地よい環境をつくる。	☆ 自分が見やすい場所へ移動させ、補助具等を用いて鑑賞させる。	☆ 周りの様子を感じ取れる場所へ行き、秋の雰囲気を味わわせる。
◆ 体を動かしながら教師も一緒に歌い、楽しい雰囲気の中で学習を終われるようにする。	◎◆ 終わりの歌を元気よく歌い、本時の終末と次時の学習を意識できるように言葉掛けをする。	◆ ○ 友達や教師の動きが見えるように、立つ位置を配慮したり、学習の終わりを意識できるような言葉掛けをしたりする。	◎◆ 耳元で歌ったり、曲に合わせて体に触れたりすることで、学習の終わりを意識できるようにする。

(4) 場の設定



(5) 評価

ア 全体目標に関する評価

- 教師に抱っこされて揺さぶられたり、友達と「おじいさん」の役交代遊びをしたりして、楽しんで歌ったり遊んだりすることができたか。
- 映像やプロジェクターの色を見ることで曲のイメージを感じ、教師と一緒にとんぼのお面等をつけて歌ったり、自由に身体表現をしたりすることができたか。

イ 個人目標に関する評価

氏名	個人目標
A 児	<ul style="list-style-type: none"> ○ わらべ歌遊びでは、教師や友達にできるだけ自分の方からかかわりを求め、楽しんで歌ったり、遊んだりすることができたか。 ○ 「とんぼのめがね」では、曲のイメージをつかみ、とんぼになったつもりで元気よく歌ったり、身体表現したりすることができたか。
B 児	<ul style="list-style-type: none"> ○ 揺さぶり遊びをする相手の教師を自分で選び能動的に楽しんだり、集団に入り役への期待感と集団遊びの楽しさを感じながら活動することができたか。 ○ 曲のイメージを映像や友達の活動する様子などで感じ取り、歌詞の一部を歌ったり、トンボになりきって自由に体を動かしたりすることができたか。
C 児	<ul style="list-style-type: none"> ○ わらべ歌遊びでは、いろいろな教師や友達と触れ合いながら抱っこや揺さぶられる心地よさを感じたり役割交代遊びを楽しんだりできたか。 ○ 背景画やプロジェクターの色で歌詞の中の「青い空」等の色の違いを感じ、教師と一緒に元気よく歌ったり体を動かしたりできたか。
D 児	<ul style="list-style-type: none"> ○ わらべ歌遊びでは、教師に揺さぶられる感覚を味わって笑顔になったり心地良く声を出したりすることができたか。 ○ 「とんぼのめがね」の教師や友達の歌声に聴き入り、顔を動かしたり視線を向けてたりすることができたか。